

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会福祉法人 清幸会	代表者	池田香織	法人・ 事業所 の特徴	さくら荘は民家改修型で、家庭的で温かみを感じられる施設です。自宅にいるのと変わらない落ち着いた場所を提供し、快適に過ごして頂ける支援を重視しています。清幸会の使命である「介護を求める、多くの人達を援助する」を念頭に置き、心のこもったサービスを提供できるよう日々取り組んでおります。
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 さくら荘	管理者	村山和恵		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	0人	2人	0人	1人	1人	0人	0人	0人	5人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取り組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	利用者に変化がある度に個別介護計画の見直しを行い、ミーティングの中で周知することにより常に最新の情報でケアにあたる。	日頃から職員一人一人が利用者様とのコミュニケーション可能な限り取るように心掛けて来た。その中で得た情報を、毎日のミーティング等の中で、職員間で情報を共有し、その都度個別介護計画の見直しを行う事が出来、より良いケアに繋げる事が出来た。	<ul style="list-style-type: none"> ・目標に対しての反省点を踏まえて、取り組んでいる事が分かった。 ・職員一人一人が事業所自己評価に取り組んでいる事が感じられる。 ・目標を設定して取り組んでいる事が分かった。 ・どのテーマについても概ね改善に向けた取り組みがなされている事が分かりました。 評価者毎に評価のばらつきがある項目については、改めて意識を揃えられるようにご検討下さい。	<ul style="list-style-type: none"> ・職員によって経験や能力にどうしても差が出来てしまうが、その差を少しでもなくすため、ミーティング等の機会を多く作り、意識の統一を図る。 ・利用者様とのコミュニケーションを密にし、そこで得られた情報や変化等を職員間で情報共有し、より良い支援に繋がれるようにする。
B. 事業所のしつらえ・環境	引き続き防寒対策とプライバシー確保に努める。北向きに廊下は暖房器具を設置する等、温度差に配慮する。例年通り、畑や花壇の整備を行う。	北向きに廊下のエアコンを活用する事により快適な環境を提供する事が出来た。フロアに新たにもう一台エアコンを設置した。それにより更に快適な環境を提供する事が出来た。また備品倉庫に関して、大々的に整理整頓を行った事により、物品の管理を正確に管理できるようになったり、使いやすさがアップした。職員に対しても、整理整頓の意識付けが出来たと感じる。	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会に加入していて、回覧板を持って行った際、玄関がオープン状態で鍵はかかかっていない。 ・見える範囲では問題ないと思われる。 ・プライバシーの確保について、具体的な取り組みがあれば教えて下さい。 ・外から見ている範囲では問題は感じない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様にとって居心地が良く安心して過ごす事が出来る環境を作る事はもちろん、職員にとっても働きやすく、気持ちよく仕事ができるように工夫しながら環境を整えていく。 ・畑や花壇の整備を行い、利用者様の季節を感じて頂けるようにする。 ・各居室担当の役割を明確にすると共に、担当者が責任を持ってか

				快適な環境を整えるようにする。
C. 事業所と地域のかかわり	引き続き隣接する黒磯公園の散策やイベントの参加を行い、地域資源を絶たない様に支援を行う。	コロナウイルス感染症の影響により、地域と関わりを持つ事が難しい状況ではあったが、地域の方にたくさんの葉牡丹を提供して頂き、利用者様も交えて屋外で一緒に楽しむ事ができた。参加できない利用者様も玄関先に並ぶ鉢植えを眺め、喜んでいる姿があ多く見られていた。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設に行った際職員は、常に挨拶をしてくれる。 ・まだまだ感染の課題はありますが、出来る範囲で取り組みを継続して頂けると幸いです。 ・地域側としてどうコミュニケーションを取れば良いかよく分からない。 ・新型コロナウイルス対応のためご尽力頂いている事と思います。 ・地域行事への参加等の実績がありましたら、ご教示下さい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・信頼関係を構築できるように、送迎や訪問の際は、明るく挨拶したり、声を掛けたりと、話しかけやすい雰囲気の中で振舞うようにする。 ・事業所を地域の方へもっと知って頂けるように、パンフレットを配布する等、PR 活動を行っていく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	支援の時間に縛りがない小規模の特徴を生かして、柔軟な対応で利用者の生活を支えていく。その為に地域住民と施設間で情報共有と連絡体制を整える。	管理者、ケアマネが中心となり、利用者様一人一人がそれぞれが必要としている支援を考え、提供する事が出来た。また、見直しが必要となった際は速やかに違った支援方法を考え、提供する事が出来た。また新規の相談を頂いた際はタイムロスにならないようにスピーディーに進める事が出来た。	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の利用者様が居心地の良い環境と思うように、今後も施設に運営に努めて頂きたい。 ・個人情報の取り扱いを踏まえた具体的な共有方法や体制が不明。 ・介護サービス相談員の受け入れや利用者様からの相談体制の確立等、利用者様の希望を汲み取る工夫がなされている事が分かりました。 	支援の時間に縛りがない小規模の特徴を生かして、柔軟な対応で利用者の生活を支えていく。その為に地域住民と施設間で情報共有と連絡体制を整える。
E. 運営推進会議を活かした取組み	引き続き、運営推進会議の中で得た地域の問題や情報に関しては、地域包括支援センターと連絡を取り支援に繋げていけるように検討を行う。	昨年度に引き続き今年度もコロナウイルス感染症の影響により、書面での開催となったが、書面を通して連携を図る事ができた。	<p>【上記5つのチェック項目に関する意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域包括支援センターからの問い合わせ、調整にはしっかりと対応して下さっています。 ・実際に地域包括支援センターと協議を行った事例等はありませんか。 	<p>運営推進会議では事業所内の実績、行事等の報告だけでなく、事業所で抱えている問題等を提示し、様々な意見やアドバイスを頂き、問題解決に繋げていけるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・運営推進員の方から情報を頂けるように関係性を構築していき

				地域の状況を把握していく。
F. 事業所の 防災・災害対策	引き続き、地域の防災計画に組み込んで頂き、火災防災時の避難訓練や避難経路のマップを作成して避難所までの避難訓練を行う。	避難訓練や通報訓練を行い、いざという時にどういう行動をすべきか、確認する事ができた。また BCP 策定の作業を通して、いざという時の備えがいかに大切かを認識する事が出来た。	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練等の実施の際に、自治会との連携を図っていますか。 ・地域側で、防災訓練等で当事業所との連携の取り方が共有されていない。 ・可能でしたら取り組み場面への協力、参加が出来たら幸いです。 ・令和 6 年度からいよいよ BCP 策定が義務付けとなりますので、策定中の BCP についても一度見直し、ご確認をお願い致します。 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的な避難訓練を行い、職員の防災に対する意識を高め、いざという時に落ち着いて行動できるよう訓練を重ねていく。 ・定期的な設備点検を怠らないようにする。